



第3次 伊賀市総合計画 (中間案)



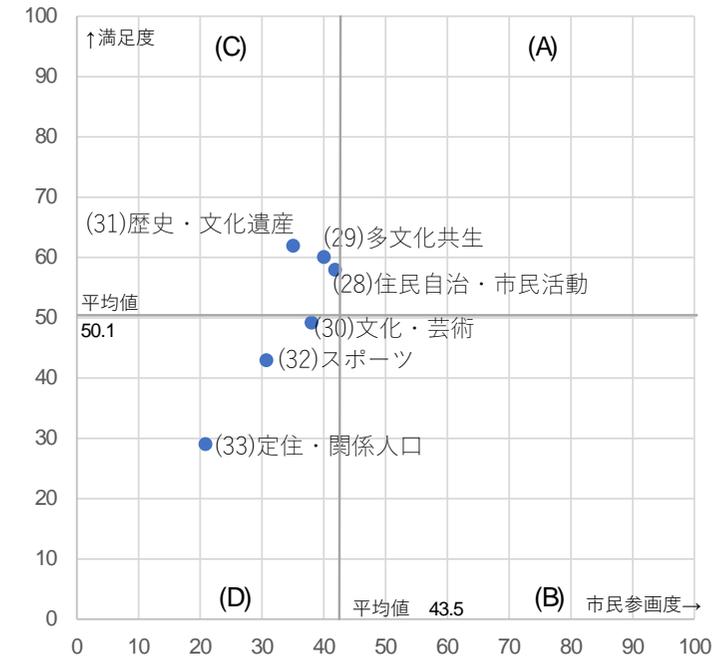


第1章 はじめに

⑥ 文化・地域づくり分野

2024（令和6）年度の結果では、満足度と参画度の相関図においては、「住民自治・市民活動」や「多文化共生」、「歴史・文化遺産」は（C）の枠に位置づけられ、より一層参画度を高める必要があります。また、「スポーツ」、「定住・関係人口」や「文化・芸術」は（D）の枠に位置づけられ、より一層市民参画、満足度の向上のために取り組む必要があります。

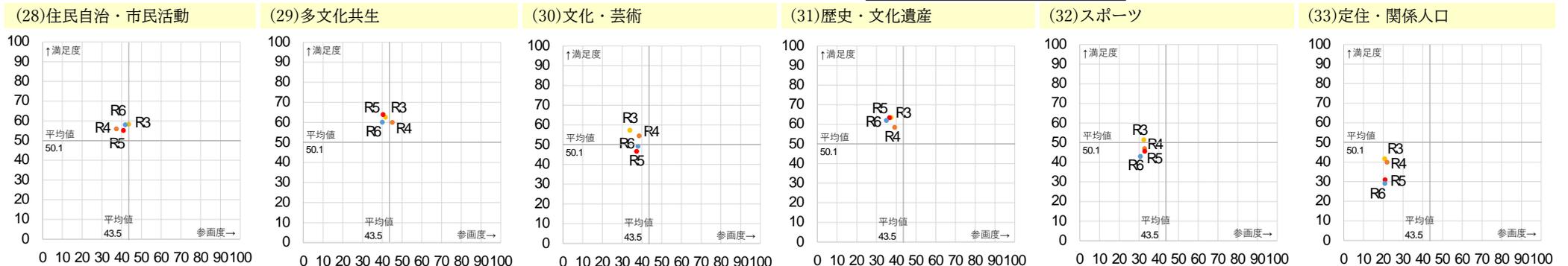
また、直近4か年の推移では「文化・芸術」「スポーツ」「定住・関係人口」について満足度が下降傾向にあります。



図表8 2024(令和6)年度実施の伊賀市まちづくりアンケートにおける満足度と参画度の相関（文化・地域づくり分野）

施策ごとの推移

凡例 R3●→R4●→R5●→R6●





第2章 構想



伊賀市には、先人から受け継いできた宝物がたくさんあります。

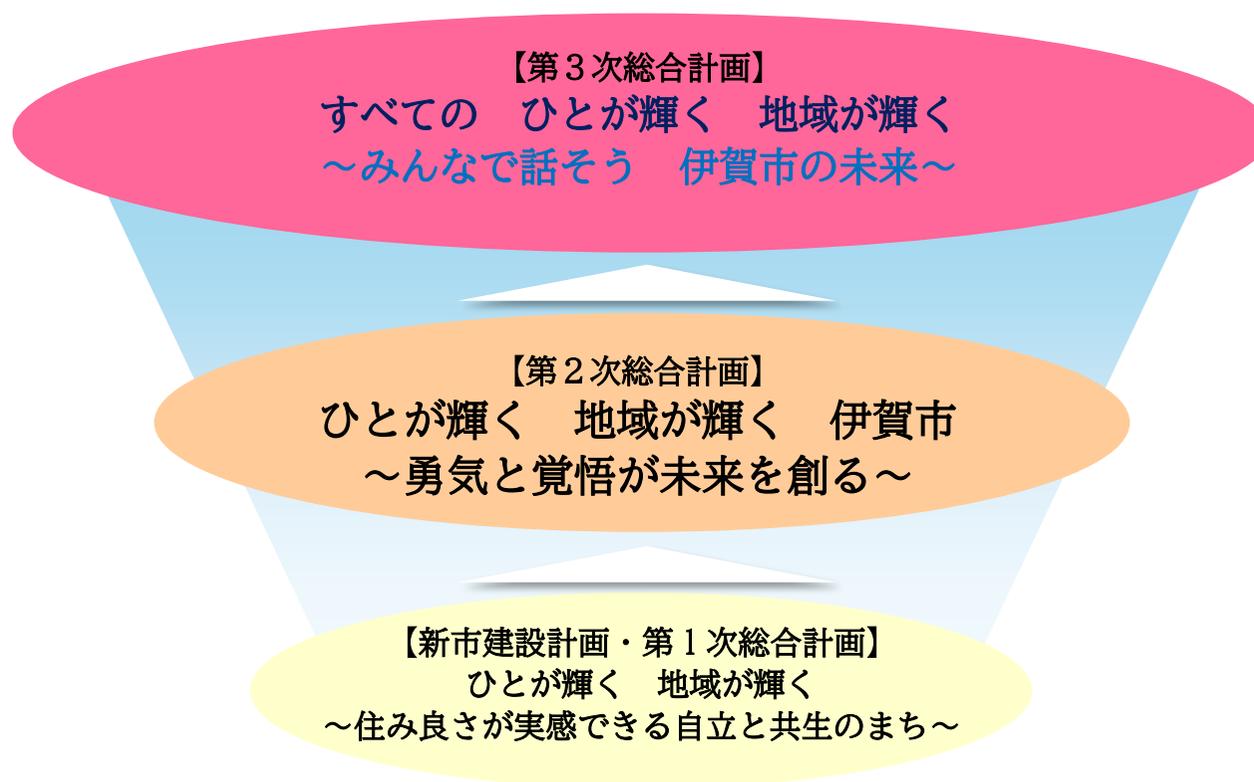
人口減少が進むなど、私たちを取り巻く社会の状況は大きく変化しています。

こうした変化の中にあっても、私たちは、地域資源（強み）を活かしながら、課題（弱み）を解決し、持続可能なまちを次世代に継承していかなければなりません。

社会経済情勢等、外的環境の変化（機会・脅威）を的確に捉え、時代の流れを力にするということも忘れてはなりません。

「第1章はじめに」では、伊賀市誕生からこれまでの20年間の振り返りや、社会経済情勢、若者を中心に様々な人の声を確認しながら、今後の課題を「豊かな人づくり」「継承と変革」「これからの自治」という切り口で整理してきました。

この章では、これらのことを踏まえながら、伊賀市の将来像、人口の将来展望を描くとともに、具体的な取り組みを分野施策ごとに体系的に整理します。





「第1章はじめに」では、これまでの20年を振り返るとともに、人口など社会経済情勢やみんなの声などを確認したうえで、「豊かな人づくり」「継承と変革」「これからの自治」という3つの視点でまとめました。

さらに、伊賀市のめざす姿（将来像）すべての **ひとが輝く 地域が輝く ~みんなで話そう 伊賀市の未来~**の実現に向けて、次の3つのテーマを目標にすべての分野において横断的に取り組むこととし、「みんなのテーマ」とします。

育

こどもが育つ、大人も育つ

- (1) すべてのこども、すべての人の権利を保障する
- (2) 多様な人材が活躍できる
- (3) 生涯を通じ、学びや学び直しができる
- (4) 様々な分野の担い手づくりを進める

持

持続可能なまちを未来に引き継ぐ

- (1) 土地や資源を有効に活用し、災害や危機に備える
- (2) 「まち・むら」が共生する
- (3) 地域経済の好循環を生み出す
- (4) 新しい流れを力にする

つ

つながりを結び直す

- (1) 自治における「公共」のあり方を見直す
- (2) 対話の場を広げ、市民参画を促進する
- (3) 地域力を高め、地域の課題を解決する
- (4) 内外の多様な主体と協働する



第3章 分野別施策



分野	1. いのちをまもる			2. くらしをささえる												3. ひとをはぐくむ							4. にぎわいをつくる									
	1-1	1-2	1-3	2-1	2-2	2-3	2-4	2-5	2-6	2-7	2-8	2-9	2-10	2-11	2-12	3-1	3-2	3-3	3-4	3-5	3-6	3-7	4-1	4-2	4-3	4-4	4-5	4-6	4-7	4-8		
キーワード 施策	防災・危機	消防・救急	医療	共生社会	健康	スポーツ	高齢者福祉	障がい者福祉	環境	廃棄物	上下水道	都市政策	住環境	公共交通	防犯・交通安全	こども	人権・平和	同和	学校教育	生涯学習	住民自治・市民活動	多文化共生	地域経済	農業・林業	都市拠点	商工・労働	観光	文化・芸術	歴史・文化遺産	定住・関係人口		
キーワード 基本事業	防災 危機管理	消防 救急	地域医療 上野総合市民病院	共助 相談	健康 健康保険	スポーツ活動 スポーツ施設	保健・介護予防 認知症 高齢者福祉サービス	介護保険サービス 障がい者相談 障害福祉サービス	環境保全 生活環境	ごみ処理 し尿処理	上下水道 下水道	都市計画 景観・公園 道路・河川	住宅等の耐震化 市営住宅 空き家	交通デザイン バス 鉄道網	伊賀線 防犯・消費者保護 交通安全	子どもの権利 育ち支援 幼児教育・保育	人権啓発 非核平和 男女共同参画	同和 学校教育	教育環境 社会教育	青少年健全育成 図書館	市民活動 住民自治	多文化共生 産業振興 公共調達のあり方	農業 農村整備 森林環境 森林資源	市街地の活性化 都市機能の集約	にぎわい忍者回廊 商工業	企業立地 起業、雇用・労働	観光誘客・情報発信 観光客の受け入れ	文化・芸術 芭蕉翁顕彰	文化財・歴史資料の保護と活用 歴史まちづくり	地域創生 移住・定住		
<h3>5. 計画の推進</h3> <p>【効果的な自治体運営】 広聴広報、公共のしくみづくり、ひとづくり、行政組織、人材、広域連携、デジタル変革 【健全な財政運営】 財政運営、税金と債権、公有財産</p>																																

4-6 文化・芸術

めざす姿 文化の力で「ひと」と「まち」を育む

【視点】みんなのテーマ

- 【豊かな人づくり】**
こどもが育つ、大人も育つ
 - 子どもたちが文化芸術を体感できる機会を拡充します。
 - 文化の担い手や後継者を育成し、次世代へと繋ぎます。
- 【継承と変革】**
持続可能なまちを未来に引き継ぐ
 - 文化ホール等の文化施設の長寿命化を図るため、計画的な修繕を行います。
- 【これからの自治】**
つながりを結び直す
 - 伊賀市文化振興条例や伊賀市文化振興ビジョンに基づき、市民、地域、行政、事業者、公益文化団体など各主体がそれぞれの役割を自覚し、連携・協働します。

計画	文化振興ビジョン、文化振興プラン、美術博物館基本構想
----	----------------------------

役割

市民 <small>(事業者や団体などを含む)</small>	<ul style="list-style-type: none"> 市民一人ひとりが、文化芸術に関心と理解を深め、主体的に関わる意識を持ちます。 文化芸術団体は、誰もが文化芸術に親しめる豊かな地域社会づくりへの推進力となるよう努めます。 事業者は、文化芸術推進の一翼を担い、文化芸術の振興に寄与します。また、文化活動や支援を積極的に実施します。
地域 <small>(住民自治協議会)</small>	<ul style="list-style-type: none"> 地域のまちづくり活動の中で、文化芸術の取り組みを進めます。 地域の文化や伝統を継承します。
行政	<ul style="list-style-type: none"> 誰もが文化芸術活動に参加できるよう、機会の充実や自主的な文化芸術活動を支援します。 文化芸術活動の拠点となる文化ホール等文化施設を有効活用し、持続可能な運営を行います。 地域の文化資源を保護、継承、活用するための取り組みを行います。

現 状	課 題	具体的な取り組み
〔文化・芸術〕 <ul style="list-style-type: none"> 伊賀市文化振興条例及びビジョンを踏まえた伊賀市文化振興プラン(前期実行計画)を策定し、文化振興審議会で進捗管理を行っています。 文化振興プランに基づき、事業カードを共有し、意見交換会やヒアリングを実施するなど実施主体が抱える課題を抽出し、解決に向けて取り組んでいます。 市展「いが」などの文化・芸術振興の取り組みを進めています。 市民の文化・芸術活動の拠点となる伊賀市文化会館などのホール施設について、既存施設の機能や役割の見直しを進め、効果的な管理運営に取り組んでいます。 文学作品に親しむ場として「岸宏子記念伊賀文学館」を、身近で芸術作品に触れる機会として「伊賀市 ミュージアム青山讃頌舎」を開館しました。 	〔文化・芸術〕 <ul style="list-style-type: none"> 文化振興プラン推進の前期実行計画が 2025(令和7)年度末で満了します。 市民や子ども達が、伊賀の歴史文化を知り、地域への愛着や誇りを育む機会が不足しています。 経年による施設の修繕箇所が増えており、伊賀市文化会館の吊天井など、大規模改修も必要です。安全面から見た優先度や効率性を考慮しつつ計画的に修繕、更新等を進め、持続可能な施設整備を行っていく必要があります。 伊賀市文化会館や、岸宏子記念伊賀文学館、伊賀市ミュージアム青山讃頌舎などで、次代を担う子どもたちが優れた文化・芸術に触れる機会を創出し、施設の利用につなげる取り組みが必要です。 	文化芸術 <p>文化芸術に親しみ、豊かな感性を育みます 文化振興課</p> <ul style="list-style-type: none"> 文化振興プラン前期計画の取り組みの成果や課題を検証し、後期計画を策定します。 (公財)伊賀市文化都市協会と連携し、子どもたちや市民が文化や芸術に触れる機会を提供します。 文化関連施設を活用し、子どもたちが次代の担い手となるよう、優れた文化・芸術に触れる機会として、文化芸術事業や、アウトリーチ事業を実施します。 伊賀市文化会館や青山ホールの適正管理運営を行うとともに、長寿命化計画に基づき、施設環境の維持向上に努めます。
〔芭蕉翁顕彰〕 <ul style="list-style-type: none"> 芭蕉翁の偉業や軌跡を次世代につなぎ、俳句俳諧文化に対する市民意識の向上のため、芭蕉祭や生誕記念事業などの顕彰事業を実施し、「芭蕉翁のふるさと伊賀市」を市内外に発信しています。 俳句のユネスコ無形文化遺産登録をめざして、関係団体や自治体などと連携し、取り組みを進めています。 芭蕉翁関連施設の管理運営を行っています。 芭蕉翁顕彰をさらに進めるため、2024(令和6)年に「芭蕉翁のふるさと」「伊賀の歴史文化」「ひろがる未来への拠点」をめざす姿とする新たな施設の建設に向けた基本構想を策定しました。 	〔芭蕉翁顕彰〕 <ul style="list-style-type: none"> 芭蕉翁顕彰事業が形骸化しないよう、常に市民ニーズを意識し、次世代につなぐための企画を検討する必要があります。 芭蕉翁関連施設の入館者数が伸び悩んでいるため、関係機関との連携・調整を図り、情報発信に努める必要があります。 芭蕉翁関連施設は、老朽化などによる傷みが激しく計画的に修繕を行う必要があります。 芭蕉翁記念館が老朽化している現状から、「創造・情報発信・交流・保存継承」といった機能を併せ持つ新しい施設の建設を進めることが喫緊の課題となっています。 	芭蕉翁顕彰 <p>芭蕉翁の功績を称え遺徳を偲び、俳諧や俳句文化の普及啓発を行います。 文化振興課</p> <ul style="list-style-type: none"> 芭蕉翁の生誕地として、顕彰事業とともに俳句文芸の調査研究、継承、啓発を行うとともに、関係団体や自治体と連携し、俳句の文化的価値を世界に発信する取り組みを進めます。 芭蕉翁関連施設や文化財施設等と連携し、魅力ある周遊ルートの開発に取り組めます。 芭蕉翁関連施設の管理運営を行い長寿命化を図るとともに、より多くの人に親しまれるよう情報発信を行っていきます。 2024(令和6)年度に策定した基本構想に基づき、芭蕉翁の顕彰とともに、伊賀市の歴史や文化芸術に触れることができる施設の建設を進めます。